大竹 悠平（数学教育コース）

「努力」をするということ

１．教育を考える一言

「最大限の努力は報われる」

２．背景

「努力は報われる」という言葉があり、もう誰が最初に言ったのかよく分からないくらい使い古された言葉です。（仏教の“縁起の理法”という考え方であるようです）さまざまな場面でよく使われていて、私もその言葉をなんとなく信じていました。しかし、中学生のときに、わたしの母が「『努力は報われる』ではなく『最大限の努力は報われる』が正しい」と言い諭してくれました。

３．考察

この言葉を教えてもらって以来、わたしは「努力をする」ということは実は都合のいい言葉ではないかというように考えるようになりました。それまでは、ほんの少しだけいつもよりも気合を入れて物事に取り組むだけで「努力をした」と言っていたと思います。

そんなときにわたしの母が「最大限の努力は報われる」という言葉を教えてくれました。当時反抗期の真っ直中にあったわたしですが、なぜかその言葉は腑に落ちたというか、ストンと自分の中に気持よく収まりました。

辻褄を合わせるような小手先の努力はしないよりはマシ、なだけです。どうせやるのなら自分のベストを尽くすべきです。それ以来何かをやろうとするときには最大限自分のベストを尽くすようになったし、上手くいかなくても「まだ何かできることがあるはずだ」と前向きに物事に取り組むことができるようになったように感じます。そして、この言葉を肝に銘じて取り組むようになって気がついたのは自分の最大限を出し尽くしたときは結果がたとえ悪かったとしても何かが残るということです。だからこそ「最大限の努力は“報われる”」なのではないかと思います。報われる、つまり何か自分にとって好ましい見返りがあるはずです。

この言葉を教えてもらったように、今度はわたしが下の世代にこの言葉を伝えていくことができたらいいなと思います。そのためにもまず自分が、これからも最大限の努力を続けていきたいと思います。ときどき「もうこれくらいでいいか」と妥協しそうになることもありますが……（すでにこの原稿を書きながら泣き言を言いそうになっている自分を戒めながら）。